



令和7年度 上長崎小 学力向上プラン

I 各種学力調査結果を踏まえた「短期プラン」

1 R6 重点課題の改善状況と R7 全学年共通の重点課題

- ◆R6重点課題の国語科「文章を書く（漢字を含む）」は、「文章を書く」が3～6年の全学年で改善が見られ、漢字は課題（6年除く）が残った。 算数科「四則計算」は課題が残った（6年除く）。
- ◆R7は、国語科では「漢字」「情報の扱い方」、算数科では「数と計算」の課題が大きい。
- ◆全校共通の重点課題を、国語科は「文章を書く力（漢字を含む）」、算数科は「読み解く力（四則計算を含む）」とする。

2 2学期以降、各学年で重点化する指導内容とその具体的取組（全：全校共通課題から 数字：学年課題から）

	重点化する指導項目	具体的な取組（関連単元、授業での取組、キューピナ等）
1 年 生	国 全	抵抗なく文章を書く
		・図鑑をつくったり、知らせたいことを文章で書いたりする言語活動を繰り返し設定し、徐々に書く力を高める。
	算 全	思ったことや伝えたいことを書く活動
		・毎週末の「先生、あのね」や行事等の感想を書く機会を多く設け、文章を書くことを習慣化させる。
2 年 生	国 全	線り上がり線り下がり の計算（文章題）
		・線を引いたり、図を描いたり、問題を視覚的に捉える習慣をつけて、読み解く力を高める。
	算 全	個々に合った反復練習
		・キューピナやCBTタワーを使い、児童それぞれの課題に応じた問題を反復練習させる。
3 年 生	国 全	文の書き方を知る
		・考えや感想を書くときに、書き出しを提示したり、ワークシートで穴埋め形式にしたりすることで、自分の思いを書きやすくする。
	算 全	漢字の習熟
		・ドリル、ミニテスト、復習をルーティーンとして定着を図る。 ・学期の中と終わりでまとめのテスト集中練習期間を設ける。
4 年 生	国 全	問題を読み解く力を 付ける
		・問題文のキーワードに線を引いたり、数量に丸をつけたりして立式する。 ・読み取った数量関係を図に表して考える。
	算 全	加法・減法・九九の定着
		・年間を通して繰り返し計算練習に取り組み、定着を図る。
5 年 生	国 全	文章を書く力を高める
		・授業の中で自分の考えを書く場を設定し、例示を示して、少しずつ自分の言葉や類語に置き換える部分を増やししながら文章が書く力を高めていく。
	算 全	漢字・語彙力の向上
		・10月末までに全範囲の指導を終わらせ、テストを繰り返し行う。 ・書いた文章の見直し（自分・友達）や、既習漢字への書き換えを繰り返す。
6 年 生	国 全	読み解く力を付ける
		・問題を解決するために必要な情報を見つけ出し、キーワードや大切な言葉に線を引かせ、立式させ、解決していく。
	算 全	四則計算
		・毎時間、授業始まりの5分間をマス計算タイムとし、続けていく。
7 年 生	国 全	文章を書く力を高める
		・授業の中で自分の考えを書く場を設定し、書く活動を積み上げていく。条件や書く視点を示し、書くことに対する苦手意識をなくしていく。
	算 全	漢字の習熟
		・全範囲を計画的に短時間で学習させ、苦手な漢字を中心に繰り返し練習を行う。 ・定期的にテストを実施することで、定着しているかどうかの確認を行う。
8 年 生	国 全	読み解く力を付ける
		・問題を解決するために必要な情報を見つけ出し、キーワードや大切な言葉に線を引かせ、立式させ、解決していく。
	算 全	四則計算
		・授業の始まりに計算タイムを設けたり、キューピナを活用したりして、反復練習を行わせる。
9 年 生	国 全	文章を書く（漢字を含む）
		・授業のまとめ、ふり返りを自分の言葉で書かせる。（①ふり返り→②まとめ） ・書くことが難しい場合は、文章の書き出しや型を示し、書けるように促す。
	算 全	漢字力の向上
		・既習の漢字は、文章の中で正しく書かせるようにする。 ・練習→小テスト→間違えた漢字の反復練習によって、定着を図る。
10 年 生	国 全	四則計算
		・年間を通して、キューピナやワークシートを使い、反復練習に取り組みさせる。 ・45分の中の5分間を使って、マス計算やキューピナの復習に取り組みさせる。
	算 全	文章問題
		・解決するために、必要な情報を見つけ出し、キーワードや大切な言葉に線を引かせ、立式させ、解決していく。
11 年 生	国 全	漢字の活用
		・授業で新しく漢字を教える際に、それを活用して文作りを行う活動を取り入れる。
	算 全	考えを書き表す
		・授業の最後に振り返りを行う際、キーワードや文字数などの条件に沿いながら、自分の言葉を使って、思いや考えを書く活動を取り入れる。
12 年 生	国 全	読み解く力
		・毎時間の授業の最初の5分間や、MEXCBT(メグビット)などを活用し、文章問題に取り組みさせる。
	算 全	

3 全校としての成果指標

1年後の各種学力調査で、国語科は「文章を書く（漢字を含む）」、算数科は「読み解く力（四則計算を含む）」に関する問題の平均正答率等を「全国（県）と同等程度（－3ポイント以内の差）以上」とする。

Ⅱ 学習・生活状況等の改善を含めた「中期プラン」

1 全国学力・学習状況調査結果による本校児童の学習や生活状況の特徴

特に優れているところ（更に伸ばしたいこと5つ）	全国平均との差(%)	上長崎小の割合(%)
①PCなどで、プレゼンテーション（発表スライド）を作成することができる。	+19.5	96.2
②授業で、PCをほぼ毎日使っている。	+13.6	60.3
③理科の勉強は好き。	+12.4	92.5
④発表するときは、考えが伝わるよう、資料や文章、組立て等を工夫している。	+8.8	77.4
⑤道徳では、考えを深めたり、グループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	+8.3	96.3

課題（改善したいこと3つ）	全国平均との差(%)	上長崎小の割合(%)
①算数の勉強は好き。	-14.5	43.4
②地域の大人に、勉強やスポーツ、体験活動、遊びなどに関わってもらっている。	-9.2	30.2
③自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。	-8.9	71.7

2 「学力向上を目指す6つの視点」による各種取組の継続

